

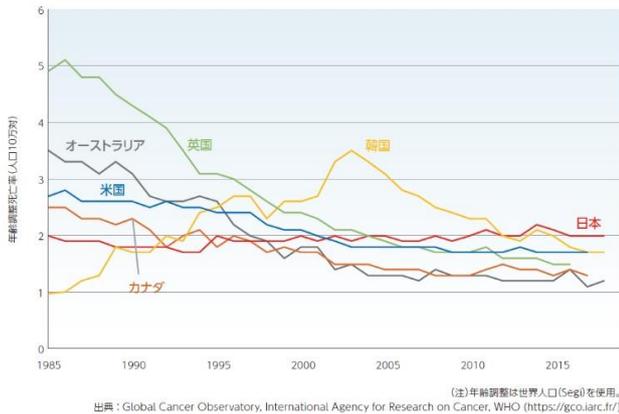
地域連携つうしん

特集

“Mother killer” と呼ばれる子宮頸がん撲滅に向けて

これまで当院産婦人科からは、HPV ワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）接種についてのお知らせをたびたび掲載させていただきました。今回は同じ子宮頸がん予防でも検診のお話です。

図2.1.6 子宮頸がん年齢調整死亡率の年次推移



出典：Global Cancer Observatory, International Agency for Research on Cancer, WHO (<https://gco.iarc.fr/>)

図2.1.2 子宮頸がん年齢階級別死亡率の推移



出典：国立がん研究センター「がん情報サービス」(人口動態統計) https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/data/dl/index.html

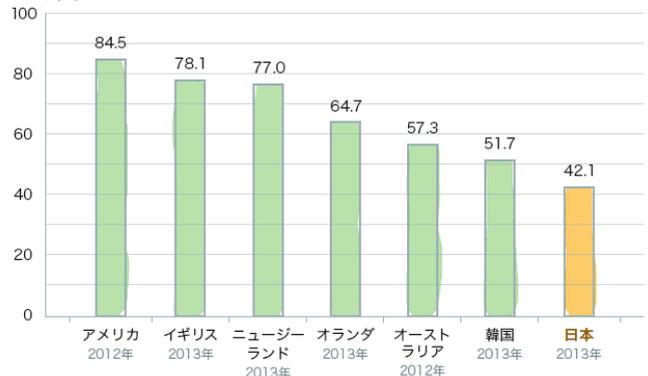
なのですが、HPV ワクチンを接種していない世代にとっては、がん検診こそが子宮頸がん予防の唯一の手段であるということも広く知って頂きたい事実なのです。

最後の図は OECD のデータから日本医師会が作成した各国の子宮頸がん検診受診率の比較です。残念ながらここでも日本は先進国の後塵を拝しています。Mother killer 撲滅を目指して、我々は検診の重要性についても積極的なメッセージを発信していきたいと思っています。

(最初の 2 つのグラフは日本がんセンターのホームページからのものです。)

現在の日本では、年間約 1 万人が子宮頸がん罹患しており、死亡者数は約 3000 人です。こう聞くと、この数字が多いのか少ないのか、ピンと来ないと思うので、国際比較でご紹介したのが左のグラフです。日本における子宮頸がんの死亡者は先進国で下げ止まりが最も見られず、唯一増加傾向にあることがわかります。更に次のグラフからは統計がとられた 3 年のうち、最も直近の 2021 年において我が国では 30 代後半から 59 歳の死亡率が最も高いことがわかります。子宮頸がんが “Mother killer” と呼ばれる所以です。我々の外来でも子宮頸がんの診断を受けた女性が、“まだ子供が小さいのに” と涙される姿を見ることがありますが、それは本当に辛く、悲しいことです。そうならないためにどうすれば良いのか。若い世代には今、HPV ワクチン接種が叫ばれていますが、ワクチンのみではがん予防は不可能です。実は子宮頸がん予防は「ワクチン」と「子宮頸がん検診」の両輪で成り立っているのです。その意味では若いワクチン接種世代にもこのメッセージは重要

受診率(%)



新任医師のご紹介

令和5年10月1日付けで3人の医師が着任しましたので、ご紹介いたします。

①所属学会 ②専門医・認定医 ③ご挨拶



内科 ^{たかはし さとし} 高橋 聡 医師

- ①：日本内科学会 日本透析医学会 日本静脈経腸栄養学会
- ②：認定内科医 総合内科専門医 透析専門医 TNT研修会 修了
- ③：根拠に基づく医療の実践に努めてまいります。



整形外科 ^{なんば みつひろ} 南波 光洋 医師

- ①：日本整形外科学会 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
- ②：日本整形外科学会専門医 藤枝MYFCチームドクター
- ③：スポーツ・膝関節疾患を専門としています。よろしくお願いいたします。



整形外科 ^{くりはら あきたか} 栗原 亨高 医師

- ①：日本整形外科学会 日本股関節学会
- ③：地域医療に貢献してまいります。



診療実績

○診療実績

項目		9月	10月
紹介患者数		268人	374人
逆紹介患者数		391人	258人
1日当り患者数	入院	184.8人	175.6人
	外来	481.8人	469.6人
病床利用率		71.1%	67.5%
救急搬送件数		103件	110件

○受託検査実績

項目	9月	10月
CT	23件	30件
MRI	45件	40件
超音波検査	13件	15件
その他検査	10件	11件

【発行】

菊川市立総合病院 地域医療支援課 〒439-0022 静岡県菊川市東横地 1632

TEL：0537-35-2344

Eメール：renkei@kikugawa-hosp.jp

FAX：0537-35-2843

ホームページ：http://www.kikugawa-hosp.jp



©菊川市